

8・30大行動を力に

戦争法案廃案へ追撃

列島騒然。戦争法案への声を政府・与党に突きつけた8月30日の全国大行動は、12万人が集結した国会議事堂周辺をはじめ全国1000カ所以上で取り組まれ、まさに日本全土を揺るがすものとなりました。国内外のメディアで大きく取り上げられるなど大成功した行動を踏まえ、何としても廃案を実現するための国民のたたかいはいよいよ正念場を迎えています。↓関連の面

止めるため声かけ続ける

国会前の光景を目の当たりにして、とにかく感動の一言です。その場に参加した、何十万人分の一の人として、国会前に立てたことがうれしかったです。

僕たちはこの間、戦争法案に抗議する場所をつくらせてきました。現場ではいつも、給水や警察官との対応など、おとなの方が親身にやってくれています。この行動は、決して学生たちだけではできませんでした。

「国会10万人行動」に参加した学生422名、SEALDs(シールズ)の代表として、矢部真太(22)が、国会前に立って抗議した。国会前に立って抗議した。国会前に立って抗議した。

新しい社会変革の動き

8・30大行動は一つの歴史的事件だと思えます。写真などから見ると参加者が12万人を超えたのは明らかです。さまざまな立場の人が立憲主義、民主主義、平和主義を守ろうと一堂に会したことは素晴らしいことです。

1960年、70年の安保闘争は政変や労組中心の運動でした。今の動きは、個人個人が主権者として立ち上がって民主主義の危機に立ち向かい、それを政変や労組が支えています。新しい社会変革の動きです。このうねりの裾野は広く根は深く張っています。廃案に向ける大きなうねりが起きているのは確実で、廃案への大きな希望を示しました。

「学者の会」の声明への学者・研究者の賛同は現在1万3647人、大学ごとの有志の会も15大学へと予想を超えて広がっています。これだけの運動をつくれたこと、世論に訴え、廃案への希望を培えたことを誇りに感じます。



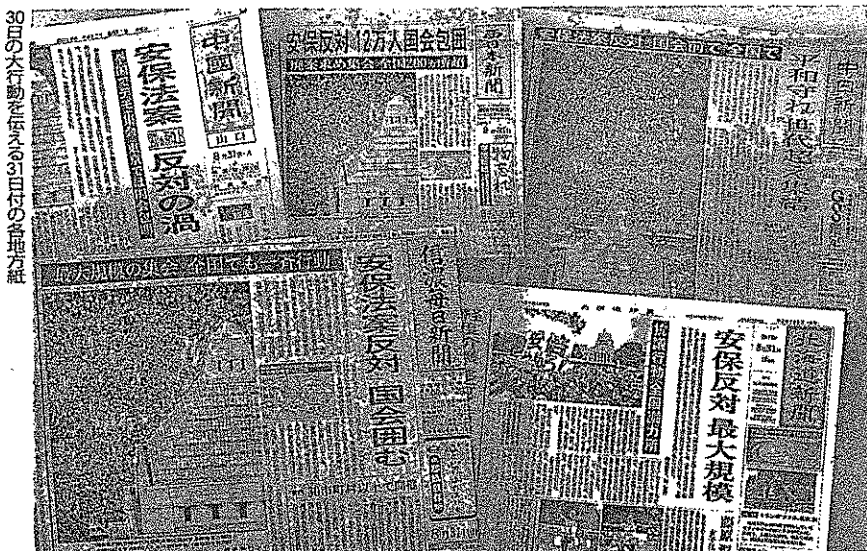
安全保障関連法案に反対する学者の会発起人 佐藤学・学習院大学教授

海外メディア、本質ズバリ

英BBC放送は30日、「前例のない光景」「彼ら(日本の青年たち)は目覚め、沈黙するのを拒否している」と紹介。戦争法案について、「第2次世界大戦後初めて、日本の軍隊による海外での戦闘を可能にするもの」と指摘し、「国民は軍国主義とたたかうため、に街頭に繰り出している」と伝えました。

また、「平和主義の数十年を経た世界大戦後初めて、日本でも地方紙が31日、本紙で「抗議行動の高まりは、世論を無視し、戦闘を可能にするもの」と指摘し、「国民は軍国主義とたたかうため、に街頭に繰り出している」と伝えました。

地方紙「意義は画期的」



30日の大行動を伝える31日の各地地方紙

数の方で押し切ることを強引な政治への危機感の表れ」「政府・与党には、民意を重く受け止めて、廃案にして出直すようあらためて求めたい」と相次ぎ表明しました。

今月上旬も

行動が連続

戦争法案の参院審議のヤマ場を迎える9月上旬、国民の圧倒的運動と国会論議で廃案にしようとする大規模な全国行動と国会行動が計画されています。

全教は「憲法を守りいかす全国教職員いっせい行動ゾーン」に設定。寄せ書きなど職場での共同を広げるとともに、新しいチラシを教職員に手渡しします。

「総がかり行動実行委員会」は、9日から18日まで行動を計画しています。

9日夕、東京の日比谷野外音楽堂で集会を開き、デモ行進します。10日と11日は、午後6時半から国会正門前大集会。14日から18日は、午後1時から5時まで、議員会館前で座り込みを行います。

日本医師連は、これまでに約1500職場6000人余が職場決議を採択。「戦争NO!」の「ちが大事」シールでアピールします。

国公労連は、職場集会